

## 教職員と市P小学校部会のシンポジウムの報告書

日 時：2004年(平成16年)2月7日(土)午後1時30分～4時30分

場 所：教育文化センター3階大会議室、研修室1、研修室2、多目的室

参加者：197名(保護者117名、教職員80名)

方 法：4つのテーマに分かれてパネルディスカッションを行う

### ①安全で安心な学校づくり

#### 安全面、教育環境(30人学級など)

##### 教職員

- ・今年に入り24H施錠が学校で実施され、教職員でその対応をしている。
- ・始業に遅れてくる子、忘れ物を届ける保護者、業者など授業中に対応する必要があり、とてもしんどい状況が続いている。
- ・校門施錠の影響
  - ①子ども達が放課後、学校へ遊びに来なくなった。
  - ②地域の方々も学校に行きづらくなっている。  
→警備員を配備する事が最善と考える。
- ・校門の施錠は「開かれた学校づくり」と矛盾する。
- ・不審者の事件は社会不安が根底にある。我々教師も「社会を良くしていく」という視点を持つ事が大切。そのために「人と人とのつながり」をつくり、校区の子は皆で守る雰囲気を作っていくべき。
- ・校門施錠は、学校によっては担外の先生の数が少なく、これを続けるためには教職員を含めた人の拡充が必要。
- ・学校の施設面の問題に目をやると、校舎の老朽化、トイレの問題などで、子ども達の日常の安全面、衛生面が脅かされている。また、1教室の人数も40人と多く、先生が子ども達一人一人に目が届くように、30人学級を求めていく。

##### 保護者

- ・不審者対策として校門の施錠が始まったが、先生方の危機管理意識は高まったのでしょうか？

##### 教職員

- ・意識は高まっており、危機管理体制を作っているところ。また、子どもへの指導を行っている。

- ・先生方は防犯のフェエをもっており、フェエでの先生同士の連携や、放送施設のチェックなど行っている。

#### 保護者

- ・不審者侵入時の緊急マニュアルを作られている学校が、知っている限り11校中9校で作られていないのが実態。マニュアルづくりが必要ではないか。

#### 【グループ討議】（4グループ各15名程度に分かれて）

##### <校門施錠の弊害>

- ・教職員はその対応に追われ、子どもの相談にのる時間さえないなど本来の職務に支障を来している。
- ・地域のお年寄り、保護者も気軽に入校できなくなった
- ・子ども達も放課後校庭であそばなくなった、卒業生も来なくなった。
- ・校門施錠によるメリットよりもデメリットの方が多いのでは？
- ・校門を施錠しても、校門や塀を乗り越えられるし、現状ではあまり意味がない。単に「施錠した」という実績づくりに見える。

##### <長期的な防犯対策>

- ・不審者を作らない社会づくりが基本
- ・保護者が入校証を使用したり、地域でパトロールの看板を自転車につけて走るなど子ども達を守るためにできる事を、先頭にたってやっていながら、教職員、地域コミュニティを巻き込む事が大切

##### <学校の課題をどう解決するか>

- ・「警備員の配置」も教職員が独走するのではなく、単P、市PなどPTAを巻き込んだ形で実施した方が良い。
- ・学校の施設面の問題（老朽化した校舎の危険箇所の修繕、トイレの問題など）や教育環境の問題をもっとPTAや保護者と共有し、行政への働きかけを含め共に力を合わせ解決していく事が大切  
→学校単位の教職員とPTA（保護者）との懇談会を実施する事も良い。
- ・教育委員会との話し合いの場をもっと必要

## ②学校5日制とゆとり教育

### 子どもたちの学力はどうなったのか

教職員・・・読み書き計算（基礎学力）には問題ないと思うが、表現力・読解力などができていない。コミュニケーション能力が減ってきているように感じ

る。読み書きは学校で習うが、コミュニケーション能力は、友達や親、その他の大人と関わって、初めて育っていくもの。学ぶ意欲の格差もあるのでは？

新学習指導要綱には不安を感じる。4年で1度やったから6年では教えなくてもできるはず・・・となってるが子どもはそれでは覚ええない。繰り返しが必要。

子どもが変わってきている。挨拶や言葉遣いができてない子が増えている。教科書が「やりにくい」「使いにくい」「あてにならない」

自分の高校生の子どもが選挙の制度を知らなくてショックを受けた。子育ての失敗を感じている。

「頑張ろう」ではなく「頑張ってるね」と声を掛けて子どもに自信を持たせたい。

保護者・・・宿題を教えるのに教科書を見てもわからない、教えたいのに教えられない。

日常の生活体験が少ないのでは。

高校はどうなっているか不安がある。

先生も努力をして欲しい。総合学習に地域や企業の出前学習を、もっと取り入れたらどうか。

ゆとり教育とは？

教職員・・・親も先生も「ゆとりがない」「時間がない」と言ってるのに、先日の教育委員会との懇談で教育委員会の方は「あるはずだ」と言われた。矛盾を感じる。

保護者・・・ゆとりとは誰にとって、何のためのゆとりか。

子どもにはゆとりがない。先生も会議の時間がとりにくくゆとりがない。

実施前には土曜の分が平日に上乘せになるとは思わなかった。先生も子どもも前の方が良いと思っている。

子どもたちが集団で遊ぶ時間が無くなってきている。

教職員・・・平日に時間がなくてもそれに打ち勝てる子どもに育てたい。

父親ももっと参加するようにしたい。

### ③学習の新たな取り組み

#### 小中学校の連携、少人数学習、英語学習、学力診断テスト

いきいき授業（小学校と中学校の教職員が入れ替わって授業を行う）は、人手不足でできないこともありそれなりの結果をだすまではまだまだ時間がかかります。

英語は学習というより、英語体験というレベルです。

学力診断テストは、昨年より難しくなった。今年は、問題も教職員の手元に残った。  
保護者と教職員がもっと話し合っ、学校をよくしていく必要がある。

#### ④中学校通学区の弾力的運用

##### 子どもたちにとって、地域はどうなっていくのか

教職員・・・先生方も9/1の発表で知り驚いている。東京の品川区ではすでに実施されている。

保護者・・・友人関係で中学を選び、すべての希望児童が行ければいいが、抽選で行けなかった場合どうなるのか。今回枚方市では抽選はなかったそうだが今後どうなるかはわからない。

子どもはクラブでバスや電車に乗り中学に通います。中学説明会に行き、その地域に住んでいないのに委員活動するにあたってとても大変だと感じた。

地域とのつながりを強く言われている中で逆行しているように思われる。

教職員・・・どの中学もHPで理念やクラブ進学先を紹介したりしている。増える中学はマンモス化し、グラウンドや体育館もクラブ数が多くなり使えない。しかし生徒数が減っている学校は先生も少なくクラブも増やせない。又、遠方より来る生徒の家庭訪問も難しくなる。修学旅行やスキーでの早朝集合も難しいかもしれない。クラブの朝練も下校時間も考えなければならない。

教職員・・・塾がABCランクを中学につけているらしいが本当なのか。

保護者・・・公立中学にランク付けなどあっていいのか。

枚方は数年前から地域の中学に行くことを当たり前のように言っていた。地域協にも力を入れている。この弾力化で崩れていくのではないか。

教職員・・・クラブ指導の先生が、手が回らない状態ならば外から招くことも考えなければならない。もうすでに実施しているところもあるようだが、まだまだである。

保護者・・・今回は対象の6年生の保護者にだけ説明があり、他の学年の保護者は何も知らない。もっと説明をしていかなければならないと思う。

この時間を意味があるものとし届けていただきたい。現場の声をもっと聞いて、今後の課題とし、改善できるところなど検討していただけたらと思う。

#### 全体会

##### 4つのテーマ報告

西山教職員代表あいさつ～教職員と保護者が膝を交えて話すことは大切です。

小西市P会長あいさつ～これからも続けていきたいです。

酒井小学校部会長あいさつ～小学校単位でこのような懇談会をしていきましょう。

## 閉会

### 感想

- ・ 単Pにおいても懇談会をしていくべきだ
- ・ 少人数のグループで発言しやすかった
- ・ 他校の現状や先生の考えが聞けて有意義であったと思います
- ・ 学校による規模の差がこんなにあることを、行政があまり把握されていない中で、先生方の苦勞がよくわかりました。現場の声がもっと反映されるように、保護者が働きかけることが大切だと思った。
- ・ 教育委員会に対して、PTAから意見をあげていく必要がある
- ・ 保護者、教職員、教育委員会との懇談会をしてほしいです
- ・ 現場の先生と校長との間にも話し合い不足があると感じた
- ・ 中学校区弾力的運用をしなくても解決できる問題はあるように思った
- ・ 正門の施錠は、あまりよい状態とは言えないようです
- ・ 子どもをとりまく保護者や先生が感じている「不都合な点」を、ひとつでもよい方向に動くように、意見として声をあげていくべきだと感じました。教育委員会もきく耳をもって対処していただきたいと思います。
- ・ 学校5日制についていい意見はほとんど無いのに、このまま続けていていいのか
- ・ 不安に思っていることを、これからは気軽に先生方にお聞きし、不安解消していこうと思います
- ・ 中学校区弾力的運用は色々な問題点があることがよく理解できた。学校を選択することで、生徒数が減っていく学校はどうなるのか。また、増えていく学校は受け入れる人数にも限界があるがどうなるのか。
- ・ 現場の先生の参加が多く、学校の実態がよくわかってよかった。
- ・ 先生方と色々な話をし、一緒に開かれた学校づくりに頑張っていくことが大切だと思いました

多数の感想をいただき、ありがとうございました。

この報告書が遅くなったことをお詫び申し上げます。

枚方市 PTA 協議会 小学校部会